

令和4年4月1日  
岐阜大学医学部附属病院

岐阜大学医学部附属病院における病院勤務医の負担の軽減  
及び処遇の改善に関する取組事項について

本病院における、病院勤務医の負担の軽減及び処遇の改善の取組の推進体制等は、以下のとおりです。

記

1. 推進組織

診療連携改善委員会

2. 推進責任者

副病院長 矢部大介

3. 推進組織構成員

医師5名

看護師1名

薬剤師1名

技師3名

事務部1名

・・・・・・・・計11名

4. 病院職員に対する取組の周知方法

- ・科長会議、医局長等合同会議における周知
- ・院内職員向けホームページへの掲載

5. 令和4年度の労働時間短縮に向けた取組

別紙のとおり

## 2. 労働時間短縮に向けた取組（項目ごとに任意の取組を記載）

### （1）タスク・シフト／シェア

#### 【看護師】

計画策定時点での取組実績	<ul style="list-style-type: none"><li>・事前に取り決めたプロトコールに基づく薬剤の投与、採血・検査の実施</li><li>・救急外来における医師の事前の指示や事前に取り決めたプロトコールに基づく採血・検査の実施</li><li>・血管造影・画像下治療(IVR)の介助</li><li>・ワクチン接種</li><li>・静脈採血（小児・新生児を含む）</li><li>・静脈路確保（小児・新生児を含む）</li><li>・尿道カテーテル留置</li><li>・診察前の情報収集</li><li>・処置行為（爪切り・鶏眼処置・ドレッシング除去・軟膏処置）の実施</li><li>・手術部位（創部）の消毒・ドレーピング</li><li>・血液培養検査（静脈血採血による）</li><li>・特定行為研修の受講を推進し、15名が受講を修了した。</li></ul>
計画期間中の取組目標	<ul style="list-style-type: none"><li>・新たに皮下埋め込み式 CV ポートの穿刺のタスクシフティングに取り組む。</li><li>・特定行為研修の受講を推進するとともに、研修修了者を適切な部署に配置する。</li></ul>

#### 【医師事務作業補助者】

計画策定時点での取組実績	<ul style="list-style-type: none"><li>・医師事務作業補助者 55 人体制で医師の具体的指示の下、診療録等の代行入力を行っている。</li><li>・外来・文書に加えて、一部の病棟に人員配置を開始した。</li><li>・実務能力の向上のため医療事務管理士の研修を行った。</li></ul>
計画期間中の取組目標	<ul style="list-style-type: none"><li>・医師事務作業補助者の増員を行い、病棟への人員配置を推進する。</li><li>・実務能力の向上のため医療事務管理士の研修に加えて、医療機関に特化した応対力・接客力の向上のためホスピタルコンシェルジュの研修を実施し、医師業務のさらなるタスクシフティングの推進を行う。</li></ul>

### 【薬剤師】

計画策定時点での取組実績	入院センターでの持参薬確認及び入院患者への服薬指導を実施している。また、PBPM（プロトコルに従って薬剤師が処方オーダーの薬剤、投与量の変更、検査オーダーを実施）を開始した。
計画期間中の取組目標	PBPM のさらなる充実を図る

### 【診療放射線技師】

計画策定時点での取組実績	<ul style="list-style-type: none"><li>・撮影部位の確認・追加撮影オーダー（医師の事前指示に基づく実施）</li><li>・放射線管理区域内での患者誘導</li></ul>
計画期間中の取組目標	新たなタスクシフトにむけて、告示研修の受講を推し進める。

### 【臨床検査技師】

計画策定時点での取組実績	<ul style="list-style-type: none"><li>・細胞診（陰性症例）や超音波検査等の検査所見を報告書に記載し、担当医に交付。</li><li>・検査部における静脈採血の実施。</li></ul>
計画期間中の取組目標	新たに外来処置室に1名の臨床検査技師を派遣する形での超音波検査実施について検討する。

### 【臨床工学技士】

計画策定時点での取組実績	タスクシフティング業務において必要となる厚労省主催研修会へ参加している。（令和4年度は2名受講）
計画期間中の取組目標	引き続き、毎年2～3名が参加予定。

### 【視能訓練士】

計画策定時点での取組実績	特になし
計画期間中の取組目標	白内障及び屈折矯正手術に使用する手術装置に手術前に視機能検査機器等で得た検査データ等を入力することを検討する。

### 【入院の説明】

計画策定時点での取組実績	入院前からの患者支援として、入院後の管理に適切に繋がるよう医療連携センター看護師、病棟看護師、ソーシャルワーカー及びアシスタントコンシェルジュが連携を図り、入院前情報収集や情報共有、患者や家族等の説明を効率的に行っている。
計画期間中の取組目標	引き続き、関係職種による入院前情報収集や情報共有、患者や家族等の説明を実施する。

### 【検査手順の説明】

計画策定時点での取組実績	関係職種が連携して、初診時の検査や術前検査の案内、後日の検査手順等を帳票を使い説明補助を行っている。
計画期間中の取組目標	引き続き、関係職種による初診時の検査や術前検査の案内、後日の検査手順等の説明補助を行う。内視鏡の検査時に、次回の内視鏡検査が決まっている場合の説明は、光学医療診療部で実施できるように調整する。

## (2) 医師の業務の見直し

### 【宿直体制】

計画策定時点での取組実績	令和4年3月から、皮膚科と眼科によるグループ宿直及びオンコール体制を導入し、宿直を交代で行い、宿直を行わない診療科はオンコール体制としている。
計画期間中の取組目標	他の診療科についても、グループ化について検討を進める。

### 【主治医チーム制】

計画策定時点での取組実績	土日・祝日や平日の夜間は、主治医ではなく当番医が対応することを内容とする院内掲示を行い、チーム制を推進した。
計画期間中の取組目標	引き続きチーム制の導入の推進を行う。

### 【外来の機能分化】

計画策定時点での取組実績	<ul style="list-style-type: none"><li>・逆紹介患者数増加について、連携パスの積極的な活用に努めるために、各診療科の医師と医療支援課職員で連携してパスの見直しを進めている。</li><li>・病診連携登録機関をはじめ、地域医療機関との連携強化を図っている。</li><li>・紹介状の未返書リストを活用し、外来クレークから該当医師へ手紙を書くように依頼している。</li></ul>
計画期間中の取組目標	引き続き、逆紹介患者数増加、地域地域医療機関との連携強化に向けた取り組みを実施する

### 【学内保育・病児保育・休日保育の整備等】

計画策定時点での取組実績	大学内に設置されている認可保育園の利用に加えて、近隣の企業主導型保育施設と連携して、子育て世代の医師の働きやすい環境の整備に努めている。また、院内に設置する保育施設において、休日保育（土曜）を実施している。
計画期間中の取組目標	引き続き通常保育、休日保育が利用できる環境の整備を行うとともに、現在休止中の病児保育の再開を目指す。

## （3）その他の勤務環境改善

### 【モバイル端末での電子カルテ閲覧】

計画策定時点での取組実績	特になし（未導入）
計画期間中の取組目標	タブレット等を用いて、院外で電子カルテを閲覧できるシステムを構築する

### 【モバイル端末での問診票導入】

計画策定時点での取組実績	初診時の予診の問診票について、見直しが必要な診療科については、改訂を終えた。また、タブレット等を用いた問診票導入に向けた影響調査を行った。
計画期間中の取組目標	タブレット等を用いた問診票導入について、新医療情報システムの外来WG等で検討を行う。

### 【短時間勤務医師の活用】

計画策定時点での取組実績	育児短時間勤務（正規職員）、育児部分休業（正規職員）及びパート職員採用を利用し、大学院生や子育て中の女性医師の雇用を推進している。
計画期間中の取組目標	引き続き、大学院生や子育て中の女性医師の雇用を推進する。

### 【患者相談窓口の設置】

計画策定時点での取組実績	<ul style="list-style-type: none"><li>・毎週開催のカンファレンスで苦情・クレーム等の症例検討を行い、年1回リスクマネージャーに報告を行っている。</li><li>・要注意患者の来院について、保安職員と外来医師とで密に情報を取り合い苦情・クレームの未然防止に努めている。</li></ul>
計画期間中の取組目標	引き続き、苦情・クレーム等の症例検討を行うとともに、苦情・クレームの未然防止に努める。

### 【手術概要説明ビデオの導入】

計画策定時点での取組実績	手術を控えている患者さんに、病状、手術の方法、手術後の状態等について理解を深めてもらうとともに、医師・看護師の労力軽減を図るため、25本の手術前説明ビデオの作成を行った。
計画期間中の取組目標	引き続きビデオ視聴を行うとともに、新たな手術前説明ビデオの作成を行う。

### 【電子カルテシステム】

計画策定時点での取組実績	事前ログインを継続して行い、古い端末を継続的に交換することで、電子カルテシステム起動の待ち時間短縮に努めている。次期電子カルテシステムにおいて、自由提案項目で負担軽減につながる仕組みについて提案をさせた。また構築においては、専門部会で業務の見直しを含め設計を進めている。
計画期間中の取組目標	引き続き、起動時間短縮の取り組みを実施するとともに、次期電子カルテシステムでの負担軽減につながる取り組みを検討する。